

実践講座を行いました。その後、地域日本語教室の数は増えてきましたが、日本語レベルがゼロ初級の外国人にボランティアが日本語を教えるというのはノウハウもなく難しく、通常週1回ペースの地域日本語教室では日本語の習得にも無理があるということで、新たな取り組みとして、熊本県の委託を受け日本語を学習した経験のない初心者を対象に1週間連続36時間で日本語の基礎文法を学ぶ初期日本語集中講座を行いました。1週間ですべての語彙を覚え、会話ができるようになるわけではありませんが、日本語の骨格がわかるということで非常に好評でした。最初にきちんとした日本語をプロの日本語教師が教え、その後を地域日本語教室のボランティアへ繋いでいくという仕組みが期待されます。

次に、熊本県内に編入してくる外国人児童のサポートについて報告されました。外国人児童たちは大人と違い、自分の意思に関係なく、両親の都合によって日本に連れてこられ、最初は日本語がほとんどできない状況で各校区の小中学校に編入してきます。熊本市内の学校に編入した場合は、ほぼ100%日本語の初期指導が受けられますが、熊本市外で対応できている自治体は、八代市と菊陽町だけです。県内どここの学校に入っても日本語指導が受けられるように「外国から来た子ども支援ネット」を数名の日本語教師の方々と作り、教材の提供や指導法などを教える活動をしてきました。現在では、外国人生徒と保護者のための進路ガイダンスや支援者の学習会、子どもたち同士の仲間作りなどのサポートもしています。最後に岩谷氏は外国人への言語保障について「日本に受け入れた以上、生活に必要な最低限の日本語は公的な機関が保障してほしい。」「日本語教育を地域日本語ボランティアに全面的に頼るのではなく、専門的な日本語教師の役割をはっきりさせ、外国人が日本語学習に負担なく取り組めるシステム作りが必要。」とまとめられました。

今後の多文化共生社会づくりのために

後半の質疑応答では、更に興味深い話を聞くことができました。



た。「(外国語指導の際には)農業に必要な会話など、場所に合った教材の準備が必要」「授業のために外部機関へ出向くことができない人のために、訪問教育が欠かせない」という申教授(韓国)の意見は、日本でも一部地域で実践されています。また、ドイツでは「多文化主義」を目指しているのではなく、「統合」を行ってきたため、外国人対象のドイツ文化講座はあっても、ドイツ人対象の他国の文化を学ぶ場はなかったそうです。しかし今後、学校でドイツ語によるイスラム文化の授業が始まるそうです。これはドイツにもっとも多く居住しているトルコ系の人々とのより良い共生を作る試みの始まりとなるでしょう。

まとめとして、コメンテーターの法政大学教授山田泉氏より、「人が生きていくうえで必要なことは、自分への誇りと、自分の社会への責任である。『社会が』『上が』と責任転嫁するのではなく、主権者は自分たち国民であるということ、一つの社会に対して、そこに暮らす人が、みんなと一緒に考えることが大切。」「自分は無関係、外国人のことは当事者がなんとかするだろうではなく、外国人住民と、コミュニティの一員としてどこかで繋がっているということを意識し、社会をよりよくするために自ら進んで行動を起こすことが大切」と総括されました。

国際掲示板

2012年(第14期)市民講座「ケルトの風」

「ハーンと熊本の人々」と題し、
熊本近代文学館館長 井上智重氏の講座を開講

【日 時】

2012年5月19日(土) 14:00～15:30(90分)

【場 所】

熊本県立図書館

「イエイツと日本」と題し、

熊本学園大学非常勤講師 伊藤裕起氏の講座を開講

【日 時】

2012年7月21日(土) 14:00～15:30(90分)

【場 所】

お菓子の香梅帯山店 ドゥ・アート・スペース

【問い合わせ先】

熊本アイルランド協会

<http://www.kumamoto-ireland.org>

Tel 096-366-5151 (お菓子の香梅内)